

令和6年度 行政視察報告書

総務厚生委員会

○総務厚生委員会

1 視察期日

令和7年1月22日（水）～23日（木） 2日間

2 視察者

○委員

委員長 吉住 龍三

副委員長 山内 貴史

委員 近藤 芳人

委員 山田 能新

委員 吉福 弘実

○同行職員

総務部総務課 理事兼課長

財務部企画課 課長

○随員職員

議会事務局 次長

3 視察目的

(1) 「DX推進の取組状況」について

①市議会ペーパーレス会議システム導入・運用について

②公共施設予約オンライン申請サービスについて

(2) 「移住定住」及び「DX推進」について

①移住定住対策について

②うすき石仏ねっとについて

4 視察地

(1) 福岡県うきは市（うきは市役所 ①議会事務局、②生涯学習課）

(2) 大分県臼杵市（臼杵市役所 ①地域力創生課、②保険健康課）

5 視察研修概要

別紙視察研修概要のとおり

総務厚生委員会視察研修概要

総務厚生委員会は、福岡県うきは市役所および大分県臼杵市役所において視察研修を行ったので、その概要を報告する。

今回の視察目的は、「DX推進の取組状況について」、「移住定住対策について」の2件である。

【福岡県うきは市】

1 DX推進の取組状況について

●うきは市の概要

うきは市は福岡県の南東部に位置し、北は朝倉市、西は久留米市、南は八女市と大分県日田市、東は大分県日田市と接している。地形的には、南に耳納連山を抱き、北に「筑紫次郎」と称される筑後川が流れている自然に恵まれた地域である。耳納連山を源流とする巨瀬川、小塩川、隈上川が本市内部を流れ、筑後川に注ぎ込んでいる。また、筑後川の南に広がる平坦部、平坦部と山間部との間にある山麓部、耳納連山に属する山間部に区分される。平坦部は肥沃な水田地帯が広がり、山麓部には果樹地帯が形成され、山間部は棚田などを含む森林となっている。

市域は、東西 13km、南北 11.8km で面積は 117.46km² です。地目別にみると、耕地 25.80km²、宅地 8.28km²、森林 59.26km² となっており、約 7 割が、森林・耕地といった自然豊かな地域となっている。

■令和 2 年国勢調査結果

		うきは市	平戸市
人口		27,981 人	29,365 人
高齢化率		36.0%	41.4%
面積		117.46 km ²	235.12 km ²
人口密度		238.2	124.9
産業別就業人口割合			
	第 1 次産業	15.68%	18.00%
	第 2 次産業	27.17%	19.15%
	第 3 次産業	57.15%	62.85%

■議会の概要

	うきは市	平戸市
議員定数（現員数）	14 人（13 人）	18 人（18 人）
常任委員会	総務産業委員会 厚生文教委員会	総務厚生委員会 産業建設文教委員会
その他委員会	議会運営委員会 広報広聴委員会	議会運営委員会 議会広報特別委員会

■ 予算・決算等

	うきは市	平戸市
R6 一般会計当初予算	16,329,000 千円	26,997,600 千円
R4 決算状況		
財政力指数	0.38	0.24
経常収支比率	82.6%	87.4%
実質公債費比率	6.6%	1.7%

(1) 市議会ペーパーレス会議システム導入・運用について（うきは市議会事務局）

議会運営の効率化、議会・議員活動の活性化のためオンライン会議の環境整備を図ること、また、ペーパーレス化の推進による紙文書の作成・管理・保存に係る経費の削減と労務および環境負荷の軽減を図ることを目的とし、令和5年12月定例会から議会タブレットを導入している。（導入システム：Smart Discussion）

タブレット導入に当たり、議員の半数が機器の取扱いが不慣れであったため、1年間は紙資料と併用しており、この間、議員発案による「DX推進検討会」を設置し、先進地視察や議員同士による勉強会を開催するなど準備を行い、令和7年1月よりすべての会議において完全ペーパーレス化となった。

その他にも、議員への事務連絡用アプリ「elgana」や議会関係スケジュール共有のためのアプリ「Time tree」も導入している。なお、オンライン会議の利用については、まだ実施に至っておらず、委員会条例等の改正も含め今後検討するとのことであった。

ペーパーレス化による経費削減や職員の労務負担・環境負担の軽減成果については、昨年は紙資料との併用のため実際の削減等はなかったが、同システムによる算出によると、約1年間の用紙代が497,480円（497,480枚×1円）、資料印刷・配付時間などの労務コストが1,673,600円（836.8h×2,000円）、CO2吸収量535.7kgの削減が見込めるとのことであった。

最後に、ペーパーレス化によるメリットもある一方、不慣れな議員からは、資料が見づらくなったり、メモが取りづらくなったりしているとの声もあるとのことであったが、少しずつ慣れていただくよう理解していただいているとのことであった。

(2) 公共施設予約オンライン申請サービス（うきは市教育委員会 生涯学習課）

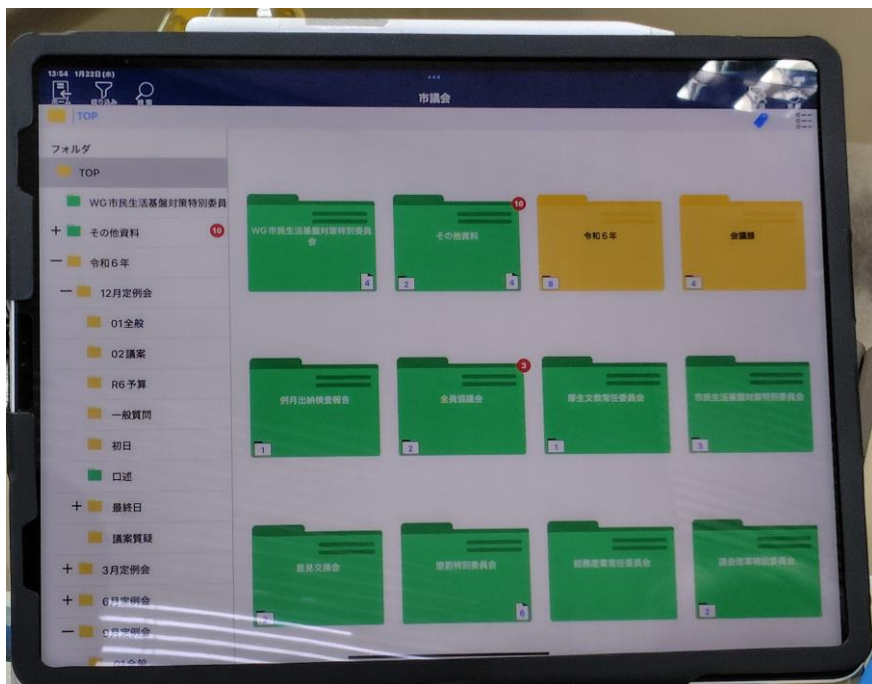
体育施設や文化施設の利用において、当日利用ができないことや窓口のみの利用申請による来庁可能な方のみが利用しているという課題があり、住民サービス向上のため、「来ない・書かない窓口」として施設予約システムを導入している。

これにより、11か所の公共施設の空き状況確認や施設予約がスマートフォンやタブレットからもできるようになり、施設使用料の支払いもオンライン決済（クレジットカードのみ）もできるようになっている。

【うきは市研修】



【うきは市議会タブレット (Smart Discussion)】



【大分県臼杵市】

1 「移住定住」及び「DX推進」について

●臼杵市の概要

臼杵市は、大分県の東南部に位置し、豊予海峡方面へ楕円状に細長く伸びた地形となっている。東は豊後水道に面した臼杵湾に臨み、南西部は鎮南山・姫岳など比較的険しい山稜が津久見市、佐伯市と接している。

河川は、野津川が南西部を東西に流れ、臼杵川・末広川・熊崎川が臼杵湾に注ぎ、これらの河川沿いには水田が、野津地域の北側には畑地が広がっている。

気象は、瀬戸内海型と南海型が混在し、年間平均気温は15～17度、平均降水量は1,500～1,800ミリメートルで、温暖多雨の自然環境に恵まれている。

■令和2年国勢調査結果

		臼杵市	平戸市
人口		36,158人	29,365人
高齢化率		41.1%	41.4%
面積		291.20 km ²	235.12 km ²
人口密度		124.2	124.9
産業別就業人口割合			
	第1次産業	9.16%	18.00%
	第2次産業	27.05%	19.15%
	第3次産業	63.79%	62.85%

■議会の概要

		臼杵市	平戸市
議員定数（現員数）		18人（18人）	18人（18人）
常任委員会		総務委員会 建設産業委員会 教育民生委員会	総務厚生委員会 産業建設文教委員会
その他委員会		議会運営委員会 予算委員会 決算委員会	議会運営委員会 議会広報特別委員会

■予算・決算等

		臼杵市	平戸市
R6 一般会計当初予算		22,370,906 千円	26,997,600 千円
R4 決算状況			
	財政力指数	0.37	0.24
	経常収支比率	92.1%	87.4%
	実質公債費比率	7.7%	1.7%

(1) 移住定住対策について（臼杵市地域力創生課）

近年、雑誌「田舎暮らし」の「住みたい田舎ベストランキング」（3万～6万人未満の市）の上位で、年間の移住者数も200人以上という実績を残している。

現在の職員体制としては、地域力創生課の定住促進グループに課長を含め正規職員4名、定住支援員2名、会計年度任用職員1名、地域おこし協力隊1名の計8名で対応しており、移住定住に関する各種支援制度はもちろんのこと、空き家バンク制度や移住体験ツアー、就職支援、移住者交流会などに取り組んでいる。大分市に隣接していることや高速道のインターなど、本市より立地条件がいいこともあるが、主に子育て世代（40歳未満）をターゲットとし、子育て支援策として、保育料の完全無償化、高校生までの医療費無償化、病児保育の送迎支援、産後ケアなどの充実を力を入れている。学校給食においては、農業への理解、地元への愛着を養うため、地元農家が生産した“給食畑の野菜”を取り入れ、そのうち約6割が有機栽培された「ほんまもん野菜」を使用していることも移住定住を決める大きな要因となっているようである。

令和6年度からは「臼杵市しごと紹介サービス事業」を新設し、移住を検討している方と市内企業の紹介・あっせんも行っている。

(2) うすき石仏ねっとについて（臼杵市保険健康課）※DX関係

医療分野・介護分野において情報を共有することにより、無駄の少ない安全で質の高い医療・介護サービスを提供することを目指し、平成20年3月に医療・介護・保健情報連携システム「うすき石仏ねっと」を稼働。本システムは、市内のケーブルテレビのネット網を用いて各施設と閉域で接続したICTネットワークとなっており、現在は、病院、診療所、歯科診療所、訪問看護ステーション、調剤薬局、介護施設、居宅介護支援事業所、消防署などの参加施設の間で病気、薬、検査結果などの情報を共有している。

図1



「うすき石仏ねっと」に市内医療機関等のほとんどの施設が参加し、市民の約半数が加入している。このシステムが全国に先駆けて成功した要因は、中心となる医師会に熱意をもった医師がいたことが一番の要因であるとのことであった。

システム導入の成果としては、糖尿病の早期発見・早期治療につながり、重症化予防につながることや、救急搬送時に病院到着までに必要な処置が確認できるようになったなど、無駄の少ない、質の高いサービスにつながっている。

【臼杵市視察】



【集合写真（議場）】



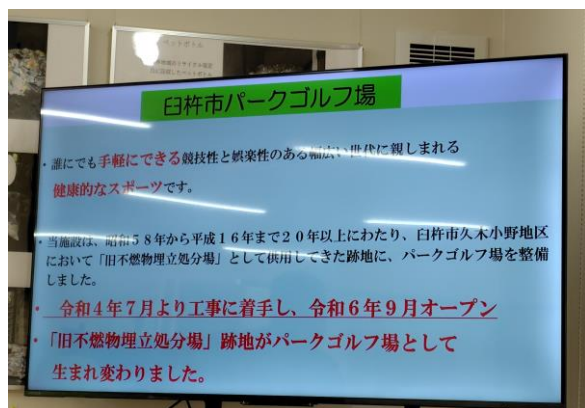
※その他の施設見学（臼杵市パークゴルフ場）

臼杵市議会議長から紹介していただき施設を見学。旧不燃物埋立処分場跡地を有効活用するためパークゴルフ場を整備し、令和6年9月にオープンした。平日は高齢者が中心、土日は子ども含めた家族ぐるみで利用されている。

【事業費】 3億6千万円

【利用者】 平日約50人、土日約100人

【事業概要】



【当時の不燃物埋立処分場】



【生まれ変わったパークゴルフ場】



【パークゴルフ コース図】



総務厚生委員 視察研修報告書

●吉住 龍三 委員長

近年の地方自治体を取り巻く課題は、人口減少対策や少子化対策、CO²排出ゼロ対策などの環境問題、公共施設の適正管理やDXの推進などであるが、これらに共通して考えられる対策と目標は「持続可能な地域の構築」に集約されるのではないかと考える。今回、総務厚生委員会では、これらの課題に対する取り組みを積極的に展開している2つの自治体への行政視察を行った。

うきは市では、まず市議会における「ペーパーレス会議システム導入・運用」について説明を受けたが、令和5年12月からペーパーレス化のためのタブレットを導入し、本年1月から全ての会議のペーパーレス化を行っているとのことであった。このため、まだ試行錯誤を繰り返しながら運用を行っており、これから本格的なペーパーレス化を行っていくという状況であった。なお、システムは多くの地方議会で導入されている「Side Books」ではなく「Smart Discussion」が採用されていた。選択の理由として2画面表示が可能など4項目をあげておられた。シェアの多寡に関わらず良いものを積極的に採用する姿勢には一定の評価ができると考えるが、今後の議会運営において有効に活用されることを心から願いたい。一方、「公共施設予約オンライン申請サービス」については、導入間もなく実績も少ないことからここでは割愛する。

臼杵市では、DX推進の先駆けともいえる「うすき石仏ねっと」と「移住・定住政策」について説明を受けた。移住・定住関係については他の委員の報告に委ね、ここでは「うすき石仏ねっと」について触れたい。

システムの概要は本報告書6頁の図1のように、「地域包括ケアシステム」を電子化したような構成になっている。システムに登録した市民の病気・投薬・検査結果などの情報が、病院から消防までの機関で連携し共有されることで、質の高い医療・介護等のサービスを提供できる仕組みになっている。高齢化が進む中で医療・介護等の提供体制の充実に大きく貢献している。しかしながら、ランニングコストも大きく、導入にあたっては民間医療機関の負担が課題となる。

2つの自治体の取り組みは、本市の課題解決にも大いに参考になるものであったが、どの団体においても政策実施にあたっては中心となって尽力する担当者の存在があるようである。地方自治体を取り巻く諸課題の解決のための本当の課題は、それらを実現するための人材の育成ではないかということを改めて実感させられた。

●山内 貴史 副委員長

総務厚生委員会の研修において、うきは市議会並びに臼杵市議会を訪ねた。

初日は、うきは市議会へ伺い、「DX推進の取組状況について」の主な2テーマとして、ペーパーレス運用についてと公共施設予約オンライン申請サービスについての研修を行った。

人口約2万8千人のうきは市議会は、議員定数14名で運営されており、総務産業・厚生文教の2常任委員会と議会運営委員会で構成され、本市と類似した自治体であった。

令和5年12月定例会のタブレットによるペーパーレスの運用開始から、令和7年1月に全ての会議において完全ペーパーレス化を実現。また、タブレット端末の使用については、会議に関係のない検索・閲覧以外を除いて、本会議、各常委員会等でのネット検索等が自由にでき、今後本市もそのことについて議論しなければならない。

また、公共施設予約オンライン申請サービスについては、市民が各施設等の使用予約を窓口に行かずとも、予約ができオンライン決済までが可能ということで、市民の利便性が向上し、各施設の使用率向上に至った。

2日目は臼杵市議会に伺い、主な2テーマとして、「移住定住対策」についてと、「うすき石仏ねっと」についての研修を行った。

人口約3万6千人の臼杵市議会は議員定数18名で運営されており、総務産業・建設産業・教育民生の3常任委員会と議会運営委員会で構成され、高齢化率（41.1%）も本市と類似した自治体であった。8年連続で住みたい田舎ランキング上位にランクインした経緯は、健康づくりや健診の充実、交通弱者向けの仕組みや、若者世代・単身者部門、子育て世代部門など老若男女問わずそれぞれに多様な取組の成果が評価されたものであった。

また、DX化に伴い、医療・介護・保険情報連携システムの構築に、地元の医師会を中心として、歯科医師会・薬剤師会等の医療機関が連携協力し、市民が石仏カード1枚を提示することで、様々な医療機関にあるデータを共有することができ、診療時間の短縮や、医療費の軽減へ繋がる画期的な取組だった。いずれにしても、市民が安心安全に受けられる医療サービス体制を整備することで、移住定住にもつながっていると感じた。

近年のDX化により、経費削減はもとより、行政事務の効率化や市民サービス向上など理想とする社会を実現へと大きく変化しつつあり、この波に本市も乗り遅れがないように、議会も研究を行い、行政と連携して取り組まなければならない。

●近藤 芳人 委員

臼杵市の定住政策は、特別にユニークなことをしているかという点、平戸市や他市町と類似事業を展開していて、それにも関わらず成果に大きな違いがあり衝撃を受けた。

臼杵市の人口は本市とほぼ同じであるが、年間の移住者数が本市の約2倍（年間200人前後）を維持しており、移住者の多くが子育て世代であるということが大きな特徴である。その結果、人口減少が進む中でも全人口に占める子供の割合が横ばいを維持していることは高齢化と子育て世代の減少が顕著な多くの地方自治体との最大の相違であると言える。

臼杵市には会社員として就職する転入者が多く、転出者が非常に少ないことが特徴である。「先の見えにくい不安定な移住者」や「老後の終の棲家を求める移住者」よりも、「安定的な家族の居住地を探して定着する移住者」が多い傾向にあると言えそうだ。

本市の産業界では今後も労働力不足が加速することが予想される。同時に空き家の活用には伸びしろが大きい。このような状況下で、行政は仲介機能を高めて仕事と住まいを中心とした定住促進を図ることが必須である。一方で起業家支援も定住化のた

めにはとても重要だと考える。起業による経済効果と雇用効果が地域活性化には不可欠である。いずれも地域おこし協力隊制度をさらに活用すべきだと考える。

また、医療や教育分野の充実も不可欠で、移住は自治体の魅力に関する「施策の総合評価」である。決して移住奨励のために安易な目先の安売り合戦に組みするのではなく、これからの理想的な田舎暮らしを標榜して価値の顕在化を意識した各種施策を立体的に構築していくべきである。多角的なアプローチと具体的な施策を通じて、平戸市の定住政策がさらなる成果を上げることを目指すべきだと強く思った。

次に、うきは市議会では、公式タブレット導入以前から個人タブレットの議場持込みを許可していて、個人の資料を開くことやウェブ参照できる運用にしており、調べものなどについては個人の機器も使っていい運用となっている。公式タブレットの機能を活かしきれないところもあるが、情報機器を活用したい議員の活動を阻害しないため、そんな運用の中で公式タブレットの活用拡大を時間をかけて行っていけばいいのではないかと思った。うきは市の担当委員会委員長の「使いこなしている人が不便にならないように使えない側が理解を示して運用するべきだと思います」という発言が最も印象深かった。

●山田 能新 委員

今回の総務厚生委員会行政視察研修は、福岡県うきは市の「DX推進の取組状況について」、「公共施設予約オンライン申請サービスについて」および大分県臼杵市の「うすき石仏ねっとについて」、「移住定住対策について」を研修した。

臼杵市の「移住定住」の中の定住促進「起業支援・研修制度」については、空き店舗等総合支援事業補助制度（商店街等の空き店舗、空き家活用での事業を開始する出店者に対する補助）や漁業担い手育成交付金（漁業の担い手となる方への定住、就業、定着を支援する交付金）、農業研修制度など各分野において支援制度があった。私は、その中でも農業研修制度に関心をもった。臼杵市の特徴的な取り組みとして、「有機の里うすき・ほんまもん農産物」を掲げ、先進農家での3年間の研修の後、有機農家として独立し地域活性化をめざす地域おこし協力隊を中心に、ファーマーズスクールで市が認定した農家（就農コーチ）のもと1～2年間研修した者が（7年前から取組まれた移住定住につながっている）有機農業に取り組んでいる。ほんまもん農産物と消費者をつなぐイベントも毎月行われ、その中から有機農業に憧れ臼杵市に移住定住したい人が増えることを期待しているとのことであった。

また、臼杵市では有機農業の推進にあたり、17年前から土づくりセンター（有機農業に欠かせない堆肥工場）を設立している。学校給食には地元生産者が生産した野菜を供給しており、そのうちの約6割を食材として取り入れているとのことであった。

現代の食生活を考えるとき、食の安全性が重要になってくるのではないかと思う。都会に住んでいる人の中には食によって極度のアレルギーになった子どものために地方へ移住した記事をよく目にする。臼杵市の有機農業に対する取組みが多くの人々の移住定住に繋がることを願うものであります。

結びに、うきは市、臼杵市の視察研修に対応していただいた職員の皆様、議長はじめ議員の皆様に御礼と感謝を申し上げ所感といたします。

●吉福 弘実 委員

今回、まずDX推進の取組状況について、福岡県うきは市を視察した。

市議会のペーパーレス会議システム導入運用状況について、議会改革特別委員会において検討され、DX推進検討委員会を6名で構成設置されており、令和5年にタブレットが導入され、令和7年1月より完全ペーパーレス化を実施し予算、決算も行う。とにかく一度やってみようとの話であったが、問題が起こることも想定しているとのことであった。印刷機能を付け、書き込んだ字が即座に整理される機能を付けている。また、行政には見やすい資料を作るよう要請している。メリットとしてはどこも同じような意見だった。

次に公共施設予約オンライン申請サービスについて説明を受けた。当初事業費が570万円、保守点検料が年間82万円。このシステムに文化施設5か所、体育施設5か所、図書館1か所が利用でき、クレジットカードのみではあるがオンライン決済が可能となっている。行政の行事が優先され、オンラインで予約できるのは利用する一週間前までとなっており、施設のカギの開閉は管理人が行っている。窓口対応が減ったことにより職員の負担軽減につながったとのこと。なお、学校施設の利用については、直接学校へ申し込みとなっている。

次に大分県臼杵市を視察した。DX推進の「うすき石仏ねっと」について研修した。これは医療、介護機関を結ぶネットワークで石仏カードを提示することで、加入機関がデータを共有することができる。平成15年3月に医師会が中心となり実験を開始、平成18年6月に医師会情報化協議会を設立、平成20年3月にシステム稼働。現在25,298人が登録しており、市民の半数が加入しているとのこと。消防署通信指令室でも閲覧でき要請者がどこの病院にかかっているか等わかるようになっている。職種別利用では薬剤師が一番多く、医師、看護師の順であった。

また、移住定住についての説明を受け、どの自治体も同じような取り組みをしていると感じた。予算が8,700万円、定着率は2,030人の内、5年間の条件で96人が転出されている。子育て世代をターゲットに展開しており、移住者は40代以下が81%を占める。住みたい田舎ランキング8年連続上位にランクインし、シニア世代部門も高評価を得ている。今後は外国人の受け入れを検討しているとのこと。若い移住者との仕事マッチング事業で25社が登録しており、本市と違う点は、働く場所が市内、市外に多いと言う点は強みと感じた。

以上、報告する。

令和7年2月17日

平戸市議会議長 松本 正治 様

総務厚生委員長 吉住 龍三